



## 新しい年を祝って走り初め

真岡鐵道SL新年号が運行

1月7日・8日の2日間、年の初めを祝い、真岡鐵道のSL新年号が運行されました。真岡鐵道は、下館駅と茂木駅(栃木県芳賀郡茂木町)を結ぶ41.9kmの鐵道で、筑西市や真岡市などの沿線自治体と芳賀地区広域行政事務組合が組織する真岡線SL運行協議会からの委託を受け、平成6年からSLの運行を続けています。SLが走るのは原則として土・日曜日と祝日で、夏休み期間中には増発列車や各種イベントも実施。全国から觀光客やSL・鐵道愛好者などが訪れています。



新年号の車内では、おみくじ付抽選会が開催され、乗客に記念品などを贈呈。また、下館駅のプラットホームは、SLを背景に記念撮影をする人たちが賑わいました。乗客のひとりには、「鐵道が大好きな1歳の息子を、SLに乗せてやろうと思いき古河市から来ました。楽しかったですね。」

## きらりと光る個性と創造性 手をつなぐ子らの作品展



「とても素敵な色使いと発想の柔軟性に感心しました」と訪れた人の目を惹きつけたのは、市内の小中学校25校で特別支援教育を受けている児童・生徒による、絵画や版画、陶芸、書道などの作品。1月13日から17日まで、スピカ6階の市文化ギャラリーで、市教育研究会の特別支援教育研究部主催による『手をつなぐ子らの作品展』が開催されました。子どもたち131人の力作296点が展示され、来場者に感動を与えました。

## 孫の遊技に笑みと喝采

市立協和幼稚園で祖父母参観



1月17日、年長組の園児107名が、今まで練習してきた遊技や歌などを祖父母の前で披露しました。会場は立ち見もでるほどのぎわいで、自分の孫を探し当てるとじっとその遊技に釘付けで、終わるたびに大きな拍手が湧きました。「家では甘えん坊でも、こんなに立派に出来るなんて」と孫の成長に驚いていました。プログラムの最後には肩たたきのプレゼントもあり、祖父母たちは大喜びでした。18日には年少組も行いました。

暮らしを考え、まちを知りたい、みんなの広場

### ■日本陶芸 100年の精華 これぞ近現代のスタンダード!

3月21日(祝)まで 月曜休館  
 茨城県陶芸美術館〔笠間市 TEL0296(70)0011〕  
 入場料=一般 600円 高大生 450円 小中生 250円  
 内 容=板谷波山『彩磁金魚文花瓶』、富本憲吉『色  
 絵金銀彩四弁花模様飾壺』など、近現代  
 日本陶芸の代表作約 160 点を展示します

### ■春を呼ぶ『福寿草まつり』

2月4日(土)～19日(日)まで 月曜休園  
 茨城県フラワーパーク〔石岡市 TEL0299(42)4111〕  
 入園料=高校生以上 370円 小中生 190円  
 小学生未満は入園無料

### ■ニューヨーク・パーク・コレクション展

3月5日(日)まで 月曜休館  
 東京都美術館〔台東区上野公園 TEL03(3823)6921〕  
 入場料=一般 1,400円 学生 1,200円

高校生 650円 65歳以上 700円

### ■フレッシュアーティスト・ティータイムコンサート 2006

3月12日(日) 午後2時開演  
 栃木県総合文化センター〔宇都宮市 TEL028(643)1010〕  
 入場料=全席自由 一般 1,000円  
 高校生以下無料(要整理券)

### ■県民文化センター開館 40周年記念事業『宗次郎』

4月11日(火) 午後6時30分開演  
 茨城県立県民文化センター〔水戸市 TEL029(241)1166〕  
 入場料=S席 3,000円 A席 2,000円  
 内 容=オカリナコンサート

### ■中丸三千繪ソプラノ・リサイタル

4月22日(土) 午後5時開演  
 結城市民文化センターアクロス〔結城市 TEL(33)2001〕  
 入場料=S席 7,000円 A席 6,000円  
 (学生は各 1,000円引)

# わが家のアイドル

1歳のお誕生おめでとう



酒寄 珠玲葵くん  
2月1日生(中根)



依田 琴音ちゃん  
2月1日生(幸町)



落合 克仁くん  
2月2日生(新花町)



新井 那歩ちゃん  
2月3日生(野田)



渡邊 蒼平くん  
2月3日生(稲野辺)



浅香 聖人くん  
2月4日生(塚原)



小林 真緒ちゃん  
2月5日生(小川)



中島 亜唯ちゃん  
2月5日生(笹塚)



富澤 拓翔くん  
2月6日生(樋口)



堀江 陽吉くん  
2月7日生(向上野)



青木 聖弥くん  
2月8日生(嘉家佐利)



早瀬 陽菜ちゃん  
2月9日生(柳)



古谷野 みゆちゃん  
2月13日生(大関)



増淵 翔大くん  
2月14日生(門井)



栗島 凜ちゃん  
2月15日生(上野)



吉水 聡美ちゃん  
2月16日生(小栗)



荒井 友紀ちゃん  
2月17日生(樋口)



鏡田 健人くん  
2月17日生(関本下)



岩淵 恭平くん  
2月18日生(二木成)



斉藤 光音ちゃん  
2月18日生(田中町)



永盛 倅宗くん  
2月24日生(玉戸)



廣沢 日那ちゃん  
2月25日生(市野辺)



渡辺 結菜ちゃん  
2月25日生(野殿)



小島 蓮生くん  
2月26日生(細田)



塚田 久斗くん  
2月27日生(横島)

平成 17 年 4 月 生まれのお子さんの写真を募集して  
 います。写真の裏面に、①お子さんの氏名・生年月日・  
 性別、②保護者の氏名・郵便番号・住所・電話番号  
 を明記のうえ、2月28日(火)までに市広報広聴  
 課広報係へ。応募者多数の場合は抽選といたします。

6年生が描くわたしの夢、このまちの未来。

## 小栗小学校



日向 梢

IT関係の会社に入  
てみんなの中心とな  
って働いてみたい。ゴミ  
のない、きれいなまち  
づくりをしてみたい。



海賀 美穂

保育士になって、小さ  
い子にいろいろなこと  
を教えてあげたい。筑  
西市に住んでよかった  
と思うまちにしたい。



海老原千尋

お菓子職人になり、た  
くさんの人に喜んでも  
らえるお菓子を作りたい。  
みんなが安心してき  
るまちになるといいな。



谷島 大輝

ボランティア活動に力  
を入れていろいろ困っ  
ている人のためにつく  
りたい。自然を大切に  
するまちにしたいな。



小島 健汰

警察官になって、人々  
が安心して暮らせるよ  
うにしたい。よい環境  
で、バリアフリーが当  
たり前のまちにしたい。



氏家 啓貴

医者になって世界で苦  
しんでいる人の病気を  
治したい。農業が盛ん  
になって特産物がいっぱい  
あるまちにしたい。



大石 光

みんなが笑顔になる料  
理を作る料理人になり  
たい。お年寄りなどに  
やさしく、犯罪がない  
まちになればいいな。



鈴木 育未

世界に通用する水泳選  
手になりたい。スポー  
ツが盛んで、みんなが  
生き生きと元気に暮ら  
せるまちにしたい。



真島 勇太

プロ野球選手になって  
松坂選手のように球の  
速いピッチャーになりた  
い。スポーツの盛んな  
まちになるといいな。



宮田 佳純

一流のパティシエに  
なって、みんなが喜ぶ  
最高のお菓子をつくり  
たい。お菓子のおいし  
いまちにしたいな。

## 大田小学校

日ごろ暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。市広報広聴課へ。

### おたより

#### 音楽がまちづくりに

筑西市誕生元年『都市(まち)づくり ふれあいコンサート すがはらやすのり』(9月27日、コミュニティプラザで開催)は反響がとても大きく、私のお店にも翌日、電話がなりつばなし。また、昨日の感動を伝えるためにお店を訪ねて下さる人で、お仕事が出来ないくらいでした。

市では毎年、野村万作さんなどの「薪能」を開催されておりますね。私も過去に何度か見せて頂きました。市民の文化向上、豊かな心をはぐくむために、とても良い市の事業の一つと思っております。

今回、すがはらさんのコンサートに参加された人のあのよ  
うな喜びの表情を拝見すると、  
市民も気楽に楽しめるようなもの  
もやっていただければ、さら  
に良いのではないかなと以前か  
ら考えておりました。

心の豊かさから円満な家庭が  
出来上がっていきます。健康も  
そうです。素晴らしい音楽鑑賞  
もその一つで、まちづくりには  
必要なことだと思います。

佐々木まち子(幸町)

## ぼくの頭より 大きいよ

恒例の『だるま市』が1月9日、歩行者天国となった大町通りで開催されました。埼玉県や群馬県のだるま業者が店を連れ、会場は福を買い求める家族連れなどで大にぎわい。だるまが並んだ店の前では、「これがいいよ」と、子どもが選ぶ光景も見受けられました。



むこうだ 向田 伸吾さん (しもおかざき 下岡崎)

多くの家庭では、子どもを学校に送りたいと思っても、送れない状況にあります。そこに日本人ボランティアが学校を建てた。ルワンダ訪問で忘れられないことをあげるとすれば、職業訓練校で学ぶ生徒たちの、あの輝いた瞳ですね。

「ルワンダに職業訓練校を建てる活動をしているボランティア団体の人たちと偶然知り合い、首都のキガリを訪れました。現地では10年程前に民族間の大量虐殺があったのですが、今ではその悪夢を払い去り、復興したように見えました。ただし、貧富の差は激しい。多くの家庭では、子どもを学校に送りたいと思っても、送れない状況にあります。そこに日本人ボランティアが学校を建てた。ルワンダ訪問で忘れられないことをあげるとすれば、職業訓練校で学ぶ生徒たちの、あの輝いた瞳ですね。」



## 「子どもたちの輝く瞳が忘れられない」 ルワンダ訪問で見た現地の姿を写真展で発表

「カメラとの出会いは、西中学校に勤務していた時のこと。修学旅行の記録写真を撮ってくれと頼まれたのがきっかけです。学校では社会科を教えているので、アメリカやインド、エジプトなどに出かけて撮った写真を子ども

たちに見せ、地理の教材に使ったりしていました。本格的に始めたのは教職を退いてからです」と語るのは、1月25日から29日まで、大町にあるギャラリーおっこの室で、『私の好きなアングル写真展』と題する個展を開いた元竹島小学校校長の向田伸吾さん(66歳)。同展では、アフリカのルワンダを訪れた際に撮影した作品や国内外で撮影した人物写真、建築物の写真などを展示しました。